

令和2年度 学校評価表

島根県立吉賀高等学校

めざす生徒像～地域・社会に貢献できる人材（財）の育成～

- 1 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる生徒
- 2 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う生徒
- 3 地域の現状を知り、ふるさととの未来に向けて行動できる生徒
- 4 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける生徒

教育目標

- 1 主体的に行動し、他者と協働できる人間の育成
- 2 自己と向き合い、粘り強く挑戦する人間の育成
- 3 答えのない課題を解決するために行動できる人間の育成
- 4 広い視野を持ち、未来を創造できる人間の育成

評価項目	重点目標	具体的施策	主資料	自己評価（昨年度）	取組状況と課題	学校関係者評価		改善策
						評価	意見	
1	学力の向上	個々の生徒に対する、効果的な教科指導 ・学習支援と学習評価 ・教師の授業力の向上	教務評価 生徒・保護者評価	3 (3)	国英数の3教科では習熟度別授業を通して、それぞれの学力層への効果的な授業を展開してもらった。また、成績が振るわない生徒への特別指導も計画的に実践してもらい成果をあげた。また、新型コロナウイルス感染症により、長期の休業期間を強いられ、家庭での学びが保障されるよう組織的に対応していただいた。 教師の授業力向上に関しては、「思考力や判断力を身につけさせる授業」を主題に授業公開を計画し、教師間のスキルアップを図ることができた。令和4年度からの新教育課程の作成については、長期にわたり教科主任会を通して協議できた。さらに、生徒や地域の意見も聞く機会を得て、学校と地域社会が協働して生徒を育成する方向性も固まってきたのではないかと。	4	・きめ細かい学習指導、そして小さな学校であたかく育んでいただいたことに感謝している。 ・コロナウイルス感染症拡大対策として、オンライン授業の可能を広げてもらいたい。 ・生徒の進路や夢を叶えられる教育体制や環境づくりにしっかりと取り組み、生徒や保護者の期待に応えられることをしっかりとPRしてほしい。 ・進路先それぞれ個性が進んでいる。個々の進路に応じた授業・勉強を増やしていくをお願いしたい。	・それぞれの学力層に対して授業目標を明確に設定し、日々の授業がより効果的なものになるよう努めていきたい。特に生徒一人一人の特性や学習進度等に応じ、指導方法や教材等の個別的選択・提供を行うことで、粘り強く学習に取り組む姿勢を育成したい。 ・基礎的・基本的な知識を確実に習得するために、ICTを活用し個別最適な学習を進めていきたい。また、ICTを活用することで、不測の休業期間にも耐えうるオンラインまたはオンデマンドの授業配信ができるよう、積極的に準備していきたい。 ・生徒一人一人の学びが、「主体的・対話的で深い学び」になるよう、地域社会との結びつきをさらに強化し、探究的な学びを引き出していきたい。また、吉賀高校魅力化コンソーシアムの協働活動は、生徒の多様な進路志望に対応するためにますます重要な時期を迎えており、さらなる連携強化を図ってきたい。
		本校の新しい教育課程の編成 ・新学習指導要領の研究 ・サクラマス・プロジェクトに基づく授業改善と教育課程づくり	教務・学年評価	3 (3)		3		
2	基本的な生活習慣の確立	生徒との信頼関係構築と協働 ・挨拶、声かけの励行	生指・生徒・保護者 地域評価	3 (3)	・ふれあい巡回や身だしなみ指導など定期的な指導や日々の観察により、多くの生徒が規律を守りつつ、落ち着いた学校生活を送ることができた。生徒の変化の察知やトラブルの未然防止のため、教員間での情報の共有をよりいっそう充実させていく必要がある。 ・町外・県外生徒への指導体制も、各部署からの協力・支援に基づき整いつつあるが、寮での生活など様々な課題が残っている。 ・生徒支援委員会の適宜開催によって、配慮の必要な生徒の情報共有が図られ、外部機関と連携をとりながら生徒の課題に組織的に対応することができた。	3	・吉高の生徒は皆まじめであり、県外の生徒も町になじんでいる。町民として最近の吉高生を嬉しく思う。 ・自ら町民に話しかけてくれたり、コミュニケーションを取ろうとしてくれる生徒が増えた。アントレや地域クラブ活動の成果だと思ふ。 ・公共交通機関や、お店でのマスク着用が徹底できるとよい。	・Q Uアンケートや安全安心アンケートの実施により、生徒の内面の不安などを把握し、問題の早期発見や未然防止を進めていく必要がある。また、心身の不安定な生徒に対する継続的な観察や支援など情報共有と共通理解を一層深め、組織的な対応を目指していく。 ・全教職員で積極的に生徒に関わり、生徒一人ひとりが学校・地域社会の担い手という意識を高め、さわやかな学校生活、交流センターでの生活が送れるよう指導していく。 ・ケースにより窓口をはっきりさせ、組織的に対応できるよう体制の整備を行う。生徒指導部内や学年会との情報共有を行い、適切な対応ができるようにしていく。
		自律的な生活態度の育成 社会人基礎力の育成 （学校はよい習慣を身につけるところ）	生指・生徒・保護者 地域評価	3 (3)		3		
		教育相談活動の充実 ・必要な生徒への個別支援	生指・保健評価 生徒・保護者評価	3 (3)		3		
3	部活動・学校行事の奨励	積極的な参加の奨励 ・地域活動への参加	生指・学年評価 地域・保護者・生徒評価	3 (3)	・多くの生徒が部活動に加入し、日々の活動に積極的に取り組んでいる。また、地域クラブを中心に地域の活動やボランティア活動に取り組むことができた。地域クラブとして参加するメンバーが、固定化されていることが課題である。 ・生徒会役員を中心に学校行事や生徒会活動が行われ、彼らの独創性や自主性が発揮された活動ができた。生徒会の生徒としっかりコミュニケーションを図り、生徒に過重な負担がかからないよう工夫が必要である。	3	・今年度はコロナ禍で、生徒の活躍する場面を見ることができず、残念だった。しかし、そんな中でもできる限りのことをやっておられたと思う。 ・学園祭に保護者が参観できなかったのは残念だったが、DVDの配布がありがたかった。	
		学校行事の活性化 ・集団としての教育力の形成	生指・学年評価・生徒評価	3 (3)		4		
4	進路指導の徹底	キャリア教育（サクラマス・プロジェクト）の充実と進路目標設定の支援	進路・教務 進路・学年評価 生徒評価	4 (4)	・総合的な学習の時間で学習したことを発展させ、大学で学びたいという目標にした生徒が複数いた。 ・進路指導部として支援できる場面では、3年生に助言を行い、進路決定を助けることができた。また、全教員で3年生の進路指導にあたり進路目標を達成することができた。 ・生徒には進路ガイダンスや大学別説明会を行い、進路選択の一助となる機会を設けた。 ・模試解説補習を行った結果、生徒たちの学力の伸長が見られた。	4	・地元や近場での就職・進学が増加してきたこと、また県外生が島根に就職してくれることが大変嬉しい。今後もこの傾向が続くと良い。 ・このコロナ禍の時代に看護や医療系を志す生徒がおられることが嬉しい。 ・3年次の進路選択に向け、1年次から計画的な指導をお願いしたい。 ・進路指導等懇切丁寧に説明して下さるので、ありがたい限り。	
		補習・放課後学習会等進路実現のための支援	進路・学年評価 保護者・地域評価	3 (3)		4		
		進路検討会・模試分析等による担任支援 各学年会との連携による生徒の進路情報の共有化	進路・学年評価 生徒・保護者・地域評価	3 (3)		3		
5	人権・同和教育の推進	HRでの指導の充実 他者の尊重、教職員による人権意識高揚の働きかけ	人権・同和教育評価 学年評価	3 (3)	・学年部で指導案を作成してもらったことで生徒の現状に応じた授業が実施できた。 ・人権・同和教育HRの合評会と教職員研修と兼ねたことで全教職員で授業を振り返ることができた。 ・安全安心アンケートや教職員の連携で、生徒間での言動や行動把握に努めた。 ・教科を通しての人権同和教育の推進に関しては、来年度からの全体計画の再編に合わせて実施する。	3	・町、中学校が参加したことで、人権教育を小中高及び町の事業とつなげる必要性や、高校入学以前の段階での指導の改善等あらためて考えることができた。 ・吉高生が発信した「新型コロナウイルス差別についてのCM」が素晴らしい。町民の間で評判になっている。	
		教職員研修の充実	人権・同和教育評価	3 (3)		3		
6	中高一貫教育の推進	サクラマス・プロジェクトと連動した中高連携の実施	中高一貫教育アンケート	3 (3)	・サクラマスプロジェクト第二期のスタートと連動して、保小中高連携という新たな理念を掲げた。 ・幾つかの教科やアントレプレナーシップ教育の実践において、中高、小中、小高等様々な連携を試みた。 ・コロナ禍により中高職員会議の開催が難しく、理念の浸透に困難があったが、ICTの活用という新たな試みも始まった。次年度は更に活用を工夫し、保小中高連携を本格始動させたい。	3	・「かっこいい吉高生の姿」に接することが、中学校としては何より刺激になる。高校生の中学校への授業訪問、文化祭講演、小学校訪問、オンライン授業参加等、双方にとって収穫が大きかった。 ・県教委指導主事を講師として、中高皆で保小中高連携について考えることができたのは大変良かった。	
7	魅力と活力ある学校づくり	サクラマス・プロジェクトと連動した活動の実施	生指・総務評価 生徒・保護者・地域評価	4 (4)	アントレプレナーシップ教育活動について、コロナ禍でもオンラインを通じて大学生と交流し、全国の企業等へオンラインフィールドワークを実施することができた。また、2月に高校魅力化学びの体制構築会議を実施し、学校と地域の協働による特色ある教育課程づくりに向けて、さらに意識を高めることができた。そして、学校の教育活動をより地域社会へ発信するため、学校だより・HPのみならず、FB・テレビ・新聞・ラジオ等のメディアを有効に活用することができた。今後、その内容をさらに地域みらい留学でも活かしていきたい。	4	・アントレの進化・発展ぶりに目を見張った。生徒達が年々積極的になり、失敗しても前向きに課題に挑む姿が見られるようになってきた。 ・アントレについて、小中学校や町がリンクしたり協力できる活動も多し、生徒達の探究テーマを早めに周知してもらえると、コラボレーションの可能性が開ける。 ・アントレについて、内容は素晴らしいのだがまだ町内で知らない人がいるのが残念。 ・吉高が今後特色ある教育課程づくりにどう取り組んでいくか大変関心を抱いている。 ・広報物について、吉高らしさが伝わるようもう工夫してほしい。	
		学校の情報を地域・保護者に十分に伝える	総務評価 生徒・保護者・地域評価	3 (3)		3		
8	学校安全管理	防災避難訓練の計画的実施	総務評価	3 (3)	危機管理意識を高めるために、事前に生徒へ予告せずに防災避難訓練を一度実施した。また、防災士の資格を持つ生徒の取り組みを活かした内容を盛り込み、生徒の関心を高めるよう努めた。	3	・従来の防災避難訓練にとどまらず、生徒の危機管理意識を高める工夫を取り入れた。防災士の資格を持つ生徒もいる中で、防災に関心を持つ生徒と連携し、生徒が主体的に訓練内容プログラムを考え実践する場も設定したい。	
		安全点検の計画的実施	生指評価 生徒・保護者・地域評価	3 (3)		3		

【評価】 4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや不十分であった 1：全く不十分で達成できなかった